

「心静かに待つ人」(要旨)
聖書箇所：マタイ11:1-19

【1】 「待つ」ために必要なこと

バプテスマのヨハネはキリストが通るための道を備えました(マタイ 11:10)。彼はその役割に徹し、イエスに洗礼を授けた後、「あの方(イエス)は盛んになり、私は衰えなければなりません」(ヨハネ 3:30)と、新しい時代が到来したことを弟子たちに宣言しました。

ヨハネは、最後の預言者として神の聖さと義に生きました。時の権力者に対しても臆せず真実を語りました(マタイ 14:3-4)。彼は、約束のキリストがご自分の民を真にきよめてくださることを待ち望んでいました(3:11-12)。

ヨハネにとって、「おいでになるはずの方」(11:3)は不義を裁かれる救い主でした。ところが、獄中で弟子を通して聞くキリストは、汚れた者に接近し、罪人をご自分の食卓に招き、悪霊に憑かれた者や病人を癒して罪の赦しを宣言される方。ヨハネが想像していたキリストとは異なっていたのでしょうか。人は、待つために忍耐を必要とします。そしてそのために待つ意義を見出したいと願います。ヨハネは待つ意義を見出すため、イエスのもとに弟子たちを送りました。

【2】 みことばに記されていたこと

イエスはヨハネの弟子たちに、「自分たちが見たり聞いたりしていること」(11:4)をヨハネに伝えるようにと促しました。

ご自分のみわざが古の預言者イザヤによって約束されたメシア預言の成就であったことを思い出させたのです。イザヤは「そのとき、目の見えない者の目は開かれ、耳の聞こえない者の耳は開けられる。そのとき、足の萎えた者は鹿のように飛び跳ね、口のきけない者の舌は喜び歌う」(イザヤ 35:5-6a)と預言していたではないかと。

イエスは、ヨハネについて最も偉大な預言者であると最大限の評価をしました。同時に、「天の御国」の到来による新しい時代とヨハネまでの時代に明白な一線が引かれた

のだと言われました。ヨハネがどんなに偉大な人物であったとしても、キリストの到来と共に、新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れる必要があるのだと。

【3】 心静かに待つ

私たちは自分の日常で起こる様々な出来事に翻弄されることがあります。心に余裕を失い、今日明日をどうやり繰りするか、それだけで精一杯になることもあります。

聖書のみことばは、希望を見出しにくい殺伐としたこの時代の中で、思い煩う者たちを励まします。顔をあげ、目を将来へ向けるようにと。「ですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は大地の貴重な実りを、初めの雨や後の雨が降るまで耐え忍んで待っています。あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主が来られる時が近づいているからです。」(ヤコブ 5:7-10)

来るべき収穫の日を忍耐して待つ農夫は待つことの意義を知っています。神は私たちに、意味もなく、ただ耐え忍ぶようにとは言われません。今の苦難が永遠に続くのではない。主が再び来られる日を待ち望み、今日を生きるように励ますのです。

▷苦難のない人生が喜びと希望にあふれているのでしょうか。いいえ、そうではありません。私たちは信仰によって苦難さえも喜ぶことができます。それは苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すからです(ローマ 5:3-5)。

